

WWLコンソーシアム構築支援事業 実施プログラムの概要並びに実施報告書 【様式1】

実施要項			
演題・講義内容	GSGの導入、国際情勢について考える①		
講演者・指導者氏名(所属)	黒宮康明 (国際部)		
実施日時	令和4年4月13日 10時25分～12時05分	外部講師来校日時	令和 年 月 日 時 分 来校方法
授業名	KOA学Ⅲ	受講対象	高校3年国際コース(7ヶ月留学生) 受講人数 19人
実施場所	翠嵐館 中教室	使用備品	プロジェクター、スクリーン、マイク 謝礼 あり(なし)
責任教員	黒宮 康明	担当教員	黒宮 康明、茨木 美帆、佃 裕介
役割分担	講義者:黒宮、司会進行:佃、生徒サポート:茨木		
目的	GSGの導入をしっかりと行うことで今年度のKOA学でどのような能力、姿勢が求められるのかを生徒自身で理解できるようになる。		
講演・講義の概要	(第1部) Global Simulation Gamingとは何か (第2部) 世界情勢について考える～1993年のウクライナの安全保障(核ミサイルの放棄)について～		
備考・その他			
実施報告			
内容	(第1部) 最初に年度初めの授業であったので、担当教員一人ひとりから全体に挨拶を述べた後、年間のスケジュールとGlobal Simulation Gaming(GSG)とは何かという話を説明した。口頭での説明の後、令和3年度に本校にてオンライン開催されたGlobal Simulation Gaming(GSG)の様子を編集したビデオを説明を交えながら、GSGの中で生徒たちが演じるアクターの様子や全体会議の取り組みなどを全員で鑑賞した。 (第2部) 現在の世界情勢について考えていく中で、ロシアとウクライナの関係性については避けては通れないということで両国の歴史的背景を考える一つの教材として、1993年のウクライナの安全保障(核ミサイルの放棄)を取り上げた。ソ連崩壊後から現在に至るまでの歴史的変遷を		
受講者の反応	GSGの導入に対して非常に前向きな姿勢を示した。その後の班活動においても積極的に英文からの情報収集並びに英文解釈に取り組んだ。		
事後指導	本日の課題として課題英文の読解を課しているので、次回はその内容を基に議論をするようにする。		
反省・課題	GSGの導入に昨年度のビデオを編集して見せることができたので、生徒たちは臨場感を持って、視覚的に、また聴覚的に理解することができた。課題としては昨年度のGSGでの実際の配布プリント等を抜粋して配っていれば更に高いレベルでの理解を促すことができたと感じている。		
記録欄	<p>課題英文のタイトル:『 Model Diplomacy Pop-Up Case : Negotiating Ukrainian Security in 1993 』</p> <p>タイムテーブル (第1部) 10:25～10:30 担当教員から年度初めの挨拶 10:30～10:40 年間スケジュールの提示、GSGとは何かの説明 10:40～11:05 昨年度のGSGの様子を編集したビデオを説明を交えながら、全員で鑑賞。 11:05～11:15 休憩</p> <p>(第2部) 11:15～11:35 ソ連崩壊後から現在に至るまでの歴史的変遷を説明 11:35～11:55 『 Model Diplomacy Pop-Up Case : Negotiating Ukrainian Security in 1993 』について、4人1組の班ごとに考えさせ、英文読解・調べ学習に取り組んだ。</p>		
	報告者	佃 裕介	

- * WWL事業に関して外部から講師を招聘する場合には、必ず前週までに運営委員会にて本書類を審議すること。
- * 「記録欄」には当日の様子を撮影した写真や、新聞などに掲載された場合はその記事等を貼付、もしくはプログラムの詳細を

WWLコンソーシアム構築支援事業 実施プログラムの概要並びに実施報告書 【様式1】

実施要項				
演題・講義内容	国際情勢について考える②、志望理由書の書き方			
講演者・指導者氏名(所属)	黒宮康明		(国際部)	
実施日時	令和4年 4月 20日 10時 55分 ~ 12時 45分	外部講師来校日時	令和 年 月 日 時 分	来校方法
授業名	KOA学Ⅲ	受講対象	高校3年国際コース(7ヶ月留学生)	受講人数 19人
実施場所	翠嵐館 中教室	使用備品	プロジェクター、スクリーン、マイク	
責任教員	黒宮 康明	担当教員	黒宮 康明、茨木 美帆、佃 裕介	
役割分担	講義者:黒宮、司会進行:佃、生徒サポート:茨木			
目的	1993年のウクライナにおける安全保障の問題を通して、当時の国際情勢を調べ、客観的なデータを基に議論できるようになる。			
講演・講義の概要	(第1部) 志望理由書の書き方について、レポートを書く際の引用元の注意点について (第2部) 世界情勢について考える~1993年のウクライナの安全保障(核ミサイルの放棄)について~			
備考・その他				
実施報告				
内容	(第1部) 大学入試に向けて志望理由書の書き方のポイントをレクチャーした。主観的な目線だけで終わるのではなく、客観的にその経験を通して何を学んで、それがどのように将来(大学での学びも含む)に繋がっていくのかということを書かなければいけないということを現在Communication英語Ⅲで取り扱っているReading materialに繋げて解説した。 (第2部) 前回の授業において、当時の情勢をまとめた英文のプリントを配布しているので、そのプリントに基づいて本日提出課題の2題について、班で考えさせて、各自提出課題のレポート作成に取り組んだ。			
受講者の反応	積極的に英文解釈に取り組み、与えられた2題の問いに対して全員で考えることができた。			
事後指導	4月27日 〆切の課題②をもとに、次回の授業でディスカッションをする。			
反省・課題	先週配布した英文プリントを教室や自宅に忘れた生徒が数名いたので、事前に連絡を徹底しておくべきだった。(忘れた生徒に対してはコピーで対応した。)			
記録欄	<p>課題英文のタイトル:『 Model Diplomacy Pop-Up Case : Negotiating Ukrainian Security in 1993 』</p> <p>タイムテーブル (第1部) 10:55~11:45 志望理由書の書き方の指導 11:05~11:15 休憩 (第2部) 11:55~12:45 グループワーク(課題①)</p> <p>課題① 『 Model Diplomacy Pop-Up Case : Negotiating Ukrainian Security in 1993 』を読んで、質問に答える。 質問の内容は、 1. “Decision Point” で、President ClintonがNSCに検討するよう指示したことは何か。 2. NSCのメンバーにはどのような政策オプションがあったか、それぞれのオプションのメリット、デメリットを答えよ。</p> <p>課題② 1993年当時のウクライナ、ベラルーシ、カザフスタンの政治・経済はどのような状況であったか。日本語でレポートしなさい。政治については、それぞれの国が、その当時、対ロシア、対アメリカ、対ヨーロッパにおいてどのような立ち位置にいたのかについても必ず言及すること。</p>			
	報告者	佃 裕介		

- * WWL事業に関して外部から講師を招聘する場合には、必ず前週までに運営委員会にて本書類を審議すること。
- * 「記録欄」には当日の様子を撮影した写真や、新聞などに掲載された場合はその記事等を貼付、もしくはプログラムの詳細を

WWLコンソーシアム構築支援事業 実施プログラムの概要並びに実施報告書 【様式1】

実施要項				
演題・講義内容	国際情勢について考える③～1993年 ウクライナ核放棄について～			
講演者・指導者氏名(所属)	黒宮康明		(国際部)	
実施日時	令和 4 年 4 月 27 日 10 時 55 分～ 12 時 45 分	外部講師来校日時	令和 年 月 日 時 分	来校方法
授業名	KOA学Ⅲ	受講対象	高校3年国際コース(7ヶ月留学生)	受講人数 20 人
実施場所	翠嵐館 中教室	使用備品	プロジェクター、スクリーン、マイク	
責任教員	黒宮 康明	担当教員	黒宮 康明、茨木 美帆、佃 裕介、	
役割分担	講義者:黒宮、司会進行:佃、生徒サポート:茨木			
目的	1993年のウクライナにおける安全保障の問題を通して、当時の国際情勢を調べ、客観的なデータを基に議論できるようになる。			
講演・講義の概要	(第1部) 世界情勢について考える～1993年のウクライナの安全保障(核ミサイルの放棄)について～ 参考文献『 Model Diplomacy Pop-Up Case : Negotiating Ukrainian Security in 1993 』の解説とグループディスカッション (第2部) 個人で調べ学習。(4月27日提出課題)内容は下記参照			
備考・その他				
実施報告				
内容	(第1部) 前回、課題として出していたレポートの模範解答や参考文献の英文解説を行った。解説の中で適宜、指導教員から生徒に対して内容に関する質問を投げかけ、それに対して生徒が答えるという形式を取った。 (第2部) 4月27日提出課題について個人で調べ学習。 『1993年当時のウクライナ、ベラルーシ、カザフスタンの政治・経済はどのような状況であったか。日本語でレポートしなさい。政治については、それぞれの国が、その当時、対ロシア、対アメリカ、対ヨーロッパにおいてどのような立ち位置にいたのかについても必ず言及すること。』			
受講者の反応	第1部では生徒たちは各々の見解を積極的に発表した。第2部では集中して調べ学習を行った。			
事後指導	4月27日提出課題の解説とその知識をもって、MiniMiniMini GSGに繋げていく。			
反省・課題	調べ学習においては、ほとんど当時の文献や当時の様子を綴った記事が出てこないで、ある程度時間を取ったら、答えではなく、解決へのヒントを与えてもよい。			
記録欄	<p>参考文献のタイトル:『 Model Diplomacy Pop-Up Case : Negotiating Ukrainian Security in 1993 』</p> <p>タイムテーブル (第1部) 10:55～11:35 先週の課題の振り返り、模範解答の提示、参考文献の英文解説 11:35～11:45 休憩 (第2部) 11:45～12:45 4月27日提出課題について個人で調べ学習</p> <p>※4月27日の課題のテーマ: 『1993年当時のウクライナ、ベラルーシ、カザフスタンの政治・経済はどのような状況であったか。日本語でレポートしなさい。政治については、それぞれの国が、その当時、対ロシア、対アメリカ、対ヨーロッパにおいてどのような立ち位置にいたのかについても必ず言及すること。』</p>			
	報告者	佃 裕介		

- * WWL事業に関して外部から講師を招聘する場合には、必ず前週までに運営委員会にて本書類を審議すること。
- * 「記録欄」には当日の様子を撮影した写真や、新聞などに掲載された場合はその記事等を貼付、もしくはプログラムの詳細を

WWLコンソーシアム構築支援事業 実施プログラムの概要並びに実施報告書 【様式1】

実施要項			
演題・講義内容	4月27日提出課題の解説、MiniMiniMini GSGへの準備		
講演者・指導者氏名(所属)	黒宮康明 (国際部)		
実施日時	令和4年5月11日10時55分～12時45分	外部講師来校日時	令和 年 月 日 時 分 来校方法
授業名	KOA学Ⅲ	受講対象	高校3年国際コース(7ヶ月留学生) 受講人数 19人
実施場所	翠嵐館 中教室	使用備品	プロジェクター、スクリーン、マイク 謝礼 あり(なし)
責任教員	黒宮 康明	担当教員	黒宮 康明、茨木 美帆、佃 裕介
役割分担	講義者:黒宮・佃、司会進行:佃、生徒サポート:黒宮、茨木、佃		
目的	調べ学習に対して適切なサイト、文献にたどり着くコツを教える。第2部は次回開催のMiniMiniMini GSGへの準備なので当日生徒たちが主体的になれるようにしっかりと理解度を高める。		
講演・講義の概要	(第1部)4月27日提出課題の解説、参考文献、参考URLの選定について (第2部)グループディスカッション		
備考・その他			
実施報告			
内容	(第1部)1993年当時のウクライナ、ベラルーシ、カザフスタンの政治・経済を様々な文献や記事を参照にして紹介。またそれぞれの国が当時ロシア、アメリカ、ヨーロッパに対してどのような立ち位置であったについても、それぞれ場合分けをして、9セクションに分けて解説を行った。またインターネットで検索してもなかなか目当ての記事にたどり着かない生徒が多々見られたので、どのように検索すればいいのか、おすすめのサイト、参考文献なども同時に紹介した。 (第2部) 4人一組でグループを5つに分け、“あなたの班が考える30年前のウクライナ政府に対してベストな提案・政策”を考えなさいというテーマのもと、グループでディスカッションをさせた。本時のテーマに対しては課題として、本日中にGoogle Classroomにて提出とした。		
受講者の反応	グループディスカッションでは、各々意見を出し合って、班としての意見をしっかりとまとめられていた。		
事後指導	第2部でのディスカッションの内容が次回のMini Mini Mini GSGで鍵になる。		
反省・課題	第2部でのディスカッションでは、いかに全員を巻き込むのが課題。フリーライダーを作らないことが大事。		
記録欄	<p>(第1部)</p> <p>10:55～11:25 4月27日提出の課題の解説。 『1993年当時のウクライナ、ベラルーシ、カザフスタンの政治・経済はどのような状況であったか。日本語でレポートしなさい。政治については、それぞれの国が、その当時、対ロシア、対アメリカ、対ヨーロッパにおいてどのような立ち位置にいたのかについても必ず言及すること。』 上記の解説を行った。</p> <p>11:25～11:35 休憩</p> <p>(第2部)</p> <p>11:45～12:45 グループディスカッション</p> <p>グループディスカッション テーマ:“あなたの班が考える30年前のウクライナ政府に対してベストな提案・政策”</p> <p>※このグループディスカッションの内容が本日の課題となった。グループとして案は出し合って、方向性を出させたが、 「代表者一人が提出」という形式ではなく、「自分の言葉でまとめて、それぞれで提出」という形式を取った。</p>		
	報告者	佃 裕介	

- * WWL事業に関して外部から講師を招聘する場合には、必ず前週までに運営委員会にて本書類を審議すること。
- * 「記録欄」には当日の様子を撮影した写真や、新聞などに掲載された場合はその記事等を貼付、もしくはプログラムの詳細を

WWLコンソーシアム構築支援事業 実施プログラムの概要並びに実施報告書 【様式1】

実施要項			
演題・講義内容	Mini Mini GSG		
講演者・指導者氏名(所属)	黒宮康明 (国際部)		
実施日時	令和4年5月18日10時55分～12時45分	外部講師来校日時	令和 年 月 日 時 分 来校方法
授業名	KOA学Ⅲ	受講対象	高校3年国際コース(7ヶ月留学生) 受講人数 18人
実施場所	翠嵐館 中教室	使用備品	プロジェクター、スクリーン、マイク 謝礼 あり(なし)
責任教員	黒宮 康明	担当教員	黒宮 康明、茨木 美帆、佃 裕介
役割分担	講義者:黒宮、司会進行:佃、生徒サポート:黒宮、茨木、佃		
目的	これまで取り組んできた内容や調べ学習をした内容を生かして、GSGとは何かということを実際に体験して、本番のGSGの導入に繋げる。		
講演・講義の概要	MiniMiniMini GSG		
備考・その他			
実施報告			
内容	本格的にGSGの導入に入る前に、実際にGSGを体験してみようという名目で、「MiniMiniMini GSG」と銘打ってこれまでの学習内容を生かして、実際に小規模のGSGを行った。チームは5人1チームを合計で4チーム作った(参加国はアメリカ、ロシア、1992年のウクライナ、2022年のウクライナ)。設定としては現在の2022年のウクライナ政府のチームが突如、30年前の独立間もないウクライナにタイムスリップし、2022年のロシアとの関係を鑑みた上で、悲慘な未来を変えるために奔走する。そしてアメリカとロシアに関しては当時の情勢も鑑みた上でウクライナの核放棄の交渉のテーブルに着く、というものであった。今回の使用言語は日本語で、Intra-Actor DiscussionsとInter-Actor Discussionsはそれぞれ2回ずつ行った。そして授業の最後には、それぞれのアクターから振り返りをや反省を全体で共有した上で、希望する生徒に関しては個人としての感想も全体で共有した。		
受講者の反応	GSGのテーマである、アクターになりきることに関してはまだまだであったが、それでも現段階のベストを尽くして前向きに取り組んだ。		
事後指導			
反省・課題	アクターになり切る、ということに関してもっと生徒に落とし込む必要がある。生徒たちは意欲的に、前向きに取り組んでいたものの、当時の情勢やその国の立ち位置等を無視した発言や振る舞いが見受けられた。ただし初めてのGSGであったが、非常に活気づいて熱い議論が繰り広げられていたので、導入としては大成功だったと言える。		
記録欄	<p>チーム分け アメリカ、ロシア、1992年のウクライナ、2022年のウクライナの4チーム (欠席者がいたのでアメリカとロシアは4名ずつ)</p> <p>タイムテーブル 10:55～11:10 状況設定の説明・チーム分け 11:10～11:25 Intra-Actor Discussions① 11:25～11:40 Inter-Actor Discussions① 11:40～11:45 休憩 11:45～12:05 Intra-Actor Discussions② 12:05～12:25 Inter-Actor Discussions② 12:25～12:40 各アクターからの反省を全体でシェア 12:40～12:45 個人での反省を全体でシェア(有志)</p>		
報告者	佃 裕介		

- * WWL事業に関して外部から講師を招聘する場合には、必ず前週までに運営委員会にて本書類を審議すること。
- * 「記録欄」には当日の様子を撮影した写真や、新聞などに掲載された場合はその記事等を貼付、もしくはプログラムの詳細を

WWLコンソーシアム構築支援事業 実施プログラムの概要並びに実施報告書 【様式1】

実施要項			
演題・講義内容	Who is a Refugee?		
講演者・指導者氏名(所属)	Henry Prosack (国際部)		
実施日時	令和4年6月1日 10時55分～12時45分	外部講師来校日時	令和 年 月 日 時 分 来校方法
授業名	KOA学Ⅲ	受講対象	高校3年国際コース(7ヶ月留学生) 受講人数 20人
実施場所	翠嵐館 中教室	使用備品	プロジェクター、スクリーン、マイク 謝礼 あり(なし)
責任教員	Henry Prosack	担当教員	黒宮 康明、茨木 美帆
役割分担	講義者:Prosack、生徒サポート:黒宮、茨木		
目的	今年度のGlobal Simulation Gamingに向けた基礎知識の獲得		
講演・講義の概要	UNHCRの定める「難民」とはどのような人々を指すのかを確実に理解するためのワークショップ		
備考・その他	オールイングリッシュの授業である		
実施報告			
内容	今年度のGlobal Simulation Gamingのテーマが、“Emergency Resolution on the Climate Refugee Crisis”に設定されたことを受け、UNHCR(国連難民高等弁務官事務所)の定める「難民」について、その定義をワークショップを通して理解し、今後の取り組みのベースとなる「難民」についての知識と共通理解に繋げる。		
受講者の反応	各グループで活発な議論が展開され、よく考え、よく議論した成果を積極的にクラスに共有した。		
事後指導	12:20からの課題について、各自Google Classroom上に提出させ、次回以降の取り組みに反映させる。		
反省・課題	特記事項なし。GSGに向けてよいスタートを切ることができた。		
記録欄	<p>10:55 UNHCRとは何か？検索することなく考えてみる → UNHCRが何を意味するのかを確認</p> <p>11:00 動画“Who is a Refugee”を視聴</p> <p>11:10 動画の内容と自らの知識を使って、「難民」とはどのような人たちのことかを3つの短いセンテンスの形に まとめる(※)</p> <p>11:25 自分が考えた「難民」の定義をグループまたはペアでシェアし、まとめる(※)</p> <p>11:30 グループまたはペアで考えた「難民」の定義をクラスでシェアし、まとめる(※)</p> <p>11:40 Where do refugees come from?/Where do refugees go?/Why are refugees coming to our country?/Can refugees stay in our country?/Are there any refugees living in our community? /Which countries do they come from?の6つの問いについてグループで考える。インターネットを使ったりサーチも可とする(※)</p> <p>11:45～11:55 10 minutes Break</p> <p>11:55 11:40～11:45までの取り組みの続き</p> <p>12:05 上記の6つの問いについて、各グループおよびペアの取組成果をクラス全体で共有する、また出てきた回答について教員より適宜質問が出され、それについても回答する</p> <p>12:20 課題:難民危機を1つ選び(現在のもの、過去のものを問わない)、2パラグラフにまとめる(※)</p> <p>※については、Google Classroom上に置かれたワークシートに生徒が各自学びの内容を記録し、提出する。使用言語はすべて英語とする</p>		
報告者	茨木 美帆		

- * WWL事業に関して外部から講師を招聘する場合には、必ず前週までに運営委員会にて本書類を審議すること。
- * 「記録欄」には当日の様子を撮影した写真や、新聞などに掲載された場合はその記事等を貼付、もしくはプログラムの詳細を

WWLコンソーシアム構築支援事業 実施プログラムの概要並びに実施報告書 【様式1】

実施要項			
演題・講義内容	Who is a Migrant?		
講演者・指導者氏名(所属)	Henry Prosack (国際部)		
実施日時	令和4年6月8日10時55分～12時45分	外部講師来校日時	令和 年 月 日 時 分 来校方法
授業名	KOA学Ⅲ	受講対象	高校3年国際コース(7ヶ月留学生) 受講人数 18人
実施場所	翠嵐館 中教室	使用備品	プロジェクター、スクリーン、マイク 謝礼 あり(なし)
責任教員	Henry Prosack	担当教員	黒宮 康明、茨木 美帆、佃 裕介
役割分担	講義者:Prosack、生徒サポート:黒宮、茨木、佃		
目的	今年度のGlobal Simulation Gamingに向けた基礎知識の獲得		
講演・講義の概要	UNHCRの定める「移民」とはどのような人々を指すのかを確実に理解するためのワークショップ		
備考・その他	オールイングリッシュの授業である		
実施報告			
内容	今年度のGlobal Simulation Gamingのテーマが、“Emergency Resolution on the Climate Refugee Crisis”に設定されたことを受け、UNHCR(国連難民高等弁務官事務所)の定める「移民」について、その定義をワークショップを通して理解し、今後の取り組みのベースとなる「難民と」「移民」の違いや、それらの知識獲得や共通理解に繋げる。		
受講者の反応	各グループで活発な議論が展開され、よく考え、よく議論した成果を積極的にクラスに共有した。		
事後指導	12:20からの課題について、各自Google Classroom上に提出させ、次回以降の取り組みに反映させる。		
反省・課題	特記事項なし。Migrantについて理解を深めることができた。		
記録欄	<p>10:55 前回の復習。“Who is a Refugee”の課題について振り返り、全員で「難民」の定義を確認する。</p> <p>11:00 動画“Who is a Migrate”を視聴(2回視聴)</p> <p>11:10 動画の内容と自らの知識を使って、「移民」とはどのような人たちのことかを3つの短いセンテンスの形にペア、もしくはグループでまとめる(※)</p> <p>11:15 ペア・グループで考えた「移民」の定義をクラス全体でシェアし、まとめる(※)</p> <p>11:20 Where do migrants come from? / Where do migrants go? / Why are migrants coming to Japan? / Can migrants stay in Japan?</p> <p>の4つの問いについてグループで考える。インターネットを使ったりサーチも可とする(※) その後、全体でシェア。</p> <p>11:40 ペア・グループで考えた「移民」の定義をクラス全体でシェアし、まとめる(※)</p> <p>11:45～11:55 10 minutes Break</p> <p>11:55 “immigrant”“emigrant”の違いについて。“refugee”と“migrant”の違いについて説明</p> <p>12:10 11:20～11:40までの取り組みの続きとWhat are some similarities between a refugee and a migrant? / What are some differences between a refugee and a migrant?についてグループで考える。(※)</p> <p>12:20 動画“Who is an internally displaced person?”を視聴。(2回視聴)</p> <p>12:25 グループで、「国内避難民」とはどのような人たちのことかを3つの短いセンテンスの形にペア、もしくはグループでまとめる(※)</p> <p>12:35 クラス全体でシェア</p> <p>12:40 If war were to break out in your town and you had to flee, where would you go? / Do you have any relatives or friends nearby where you could stay? / What about relatives or friends in another country? / If you were forced to flee, how would you get to these relatives or friends safely?についてグループでディスカッション。</p> <p>※については、Google Classroom上に置かれたワークシートに生徒が各自学びの内容を記録し、提出する。</p> <p>使用言語はすべて英語とする。</p>		
	報告者	佃 裕介	

- * WWL事業に関して外部から講師を招聘する場合には、必ず前週までに運営委員会にて本書類を審議すること。
- * 「記録欄」には当日の様子を撮影した写真や、新聞などに掲載された場合はその記事等を貼付、もしくはプログラムの詳細を

WWLコンソーシアム構築支援事業 実施プログラムの概要並びに実施報告書 【様式1】

実施要項			
演題・講義内容	Who is an Asylum Seeker?		
講演者・指導者氏名(所属)	Henry Prosack (国際部)		
実施日時	令和4年6月15日 10時55分～12時45分	外部講師来校日時	令和 年 月 日 時 分 来校方法
授業名	KOA学Ⅲ	受講対象	高校3年国際コース(7ヶ月留学生) 受講人数 20人
実施場所	翠嵐館 中教室	使用備品	プロジェクター、スクリーン、マイク 謝礼 あり(なし)
責任教員	Henry Prosack	担当教員	黒宮 康明、茨木 美帆
役割分担	講義者:Prosack、生徒サポート:黒宮、茨木		
目的	今年度のGlobal Simulation Gamingに向けた基礎知識の獲得		
講演・講義の概要	「亡命希望者」とはどのような人々を指すのか、RefugeeとAsylum Seekerの違いを理解するためのワークショップ		
備考・その他	オールイングリッシュの授業である		
実施報告			
内容	今年度のGlobal Simulation Gamingのテーマが、「Emergency Resolution on the Climate Refugee Crisis」に設定されたことを受け、これまでの授業で取り組んできた「難民」「移民」の定義の確認に引き続き、「亡命希望者」とは何かをワークショップを通して理解する。		
受講者の反応	各グループで活発な議論が展開され、よく考え、よく議論した成果を積極的にクラスに共有した。		
事後指導	12:20からの課題について、各自Google Classroom上に提出させ、次回以降の取り組みに反映させる。		
反省・課題	特記事項なし。Asylum Seekerについて理解を深めることができた。		
記録欄	<p>10:55 前回の課題の内容を確認する</p> <p>11:05 動画「Who is an Asylum Seeker」を視聴(2回視聴)</p> <p>11:10 動画の内容と自らの知識を使って、「亡命希望者」とはどのような人たちのことをペア、もしくはグループでまとめる(※) その際、インターネットを用いた情報検索は認めないものとする。視聴した動画のみを情報源とした取り組みとする</p> <p>11:20 「an Internally Displaced Person」と「an Asylum Seeker」の違いは何かをクラス全体で確認する 併せて、「Refugee」と「Migrant」の定義についても再度確認する</p> <p>11:35 本日のワークシートに沿って、ペアもしくはグループでディスカッションを進める(※) ≪ワークシートの課題≫ 2. Where do asylum-seekers come from? / Where do asylum-seekers go? / Why are asylum-seekers coming to Japan? / Can asylum-seekers stay in Japan? 3. What are some similarities between a refugee and an asylum-seeker? / What are some differences between a refugee and an asylum-seeker?</p> <p>11:45-11:55 10 minutes Break</p> <p>11:55 アメリカを例、にAsylum SeekerがGreen Cardを取得し、さらに市民権を得るまでの流れと一連の流れの中で、亡命希望者および亡命者を保護する義務を持つのはどの国または機関なのかを確認する</p> <p>12:05 「亡命希望者」の定義を最終確認する</p> <p>12:10 新しいワークシート「Omar's Story」を用いた取り組み 動画「Teaching about Refugee - Omar's Story」を視聴し、ワークシートを完成させる</p> <p>12:20 クラス全体で完成させたワークシートの内容を確認する</p> <p>12:25 動画「Where do refugees go?」を視聴し、動画のキーポイントをクラス全体で確認する</p> <p>12:35 UNHCRのメール配信サービスの紹介(登録すると週1回世界の難民に関する最新情報が配信される)</p>		
	報告者	茨木 美帆	

- * WWL事業に関して外部から講師を招聘する場合には、必ず前週までに運営委員会にて本書類を審議すること。
- * 「記録欄」には当日の様子を撮影した写真や、新聞などに掲載された場合はその記事等を貼付、もしくはプログラムの詳細を

WWLコンソーシアム構築支援事業 実施プログラムの概要並びに実施報告書 【様式1】

実施要項			
演題・講義内容	Who is an Asylum Seeker?		
講演者・指導者氏名(所属)	Henry Prosack (国際部)		
実施日時	令和4年6月15日10時55分～12時45分	外部講師来校日時	令和 年 月 日 時 分 来校方法
授業名	KOA学Ⅲ	受講対象	高校3年国際コース(7ヶ月留学生) 受講人数 14人
実施場所	翠嵐館 中教室	使用備品	プロジェクター、スクリーン、マイク 謝礼 あり(なし)
責任教員	Henry Prosack	担当教員	茨木 美帆
役割分担	講義者:Prosack、生徒サポート:茨木		
目的	今年度のGlobal Simulation Gamingに向けた基礎知識の獲得		
講演・講義の概要	「難民」また「亡命希望者」の受け入れ体制は受け入れ国によって異なる現状を把握し、そこにある課題を把握するためのワークショップ		
備考・その他	オールイングリッシュの授業である		
実施報告			
内容	今年度のGlobal Simulation Gamingのテーマが、“Emergency Resolution on the Climate Refugee Crisis”に設定されたことを受け、これまでの授業で取り組んできた「難民」「移民」「亡命希望者」の定義の確認に引き続き、国によって異なる難民の受け入れ体制についてワークショップを通して把握し、彼らの権利について考える。		
受講者の反応	各グループで活発な議論が展開され、よく考え、よく議論した成果を積極的にクラスに共有した。		
事後指導	12:25からの課題について各グループで調査を進め、次回以降の授業でも取り組みを継続する。		
反省・課題	特記事項なし。		
記録欄	<p>10:55 UNHCR Asia Pacific のWebサイト紹介</p> <p>11:05 動画“UNHCR’s Global Trends Report: 100 Million Displaced”を視聴</p> <p>11:15 動画の内容をクラス全体で確認する</p> <p>11:20 UNHCRの“June 17 Refugee Brief”を用いて、難民を取り巻く最新の情報の確認</p> <p>11:25 動画“Refugee Rights”を視聴(2回視聴)</p> <p>11:35 動画を視聴して理解した内容をワークシート“Refugee Right”にまとめ、ペアもしくはグループで共有する(※)</p> <p>以下の問いについて、ペアもしくはグループで確認する(※)</p> <p>Can you travel to any other country? What kind of documents do you need? / Can refugees be sent back to their own country? / Can refugees work and go to school in another country? / What would happen if refugees did not have the right to go to a safer country? / When were refugee rights introduced? / By whom? / What is another name for the principle that refugees cannot be sent back to their countries if there is a risk?</p> <p>11:41 ワークシートの問いについてクラス全体で確認する</p> <p>11:45-11:55 10 minutes Break</p> <p>11:55 前半の取組み内容の確認</p> <p>12:00 新しいワークシート“Who Helps Refugees?”を用いた取り組み(※)</p> <p>動画 “Who Helps Refugees”を視聴し、ワークシートを完成させる</p> <p>12:10 自分自身が難民の役に立つ方法を考え、クラスで共有する。</p> <p>12:15 新しいグループを作る(3～4名/グループ、トランプを使う)</p> <p>12:25 Asylum-Seeker Case Studyを開始する</p> <p>オーストラリア、中国、オランダ、トルコ、アメリカ合衆国の中から1つを選んで取り組む</p> <p>12:40 6月20日の世界難民の日に出されたレポートの紹介</p> <p>※については、Google Classroom上に置かれたワークシートに生徒が各自学びの内容を記録し、提出する。</p>		
	報告者	茨木 美帆	

- * WWL事業に関して外部から講師を招聘する場合には、必ず前週までに運営委員会にて本書類を審議すること。
- * 「記録欄」には当日の様子を撮影した写真や、新聞などに掲載された場合はその記事等を貼付、もしくはプログラムの詳細を

WWLコンソーシアム構築支援事業 実施プログラムの概要並びに実施報告書 【様式1】

実施要項			
演題・講義内容	Asylum-Seeker Case Study		
講演者・指導者氏名(所属)	Henry Prosack (国際部)		
実施日時	令和 4 年 6 月 15 日 10 時 55 分 ~ 12 時 45 分	外部講師来校日時	令和 年 月 日 時 分
来校方法			
授業名	KOA学Ⅲ	受講対象	高校3年国際コース(7ヶ月留学生)
受講人数	18 人		
実施場所	翠嵐館 中教室	使用備品	プロジェクター、スクリーン、マイク
謝礼	あり(なし)		
責任教員	Henry Prosack	担当教員	Prosack、黒宮、茨木、佃
役割分担	講義者:Prosack、生徒サポート:黒宮、茨木、佃		
目的	今年度のGlobal Simulation Gamingに向けた基礎知識の獲得		
講演・講義の概要	「難民」また「亡命希望者」の受け入れ体制は受け入れ国によって異なる現状を把握し、そこにある課題を把握するためのワークショップ		
備考・その他	オールイングリッシュの授業である		
実施報告			
内容	<p>今年度のGlobal Simulation Gamingのテーマが、“Emergency Resolution on the Climate Refugee Crisis”に設定されたことを受け、これまでの授業で取り組んできた「難民」「移民」「亡命希望者」の定義の確認に引き続き、国によって異なる難民の受け入れ体制についてワークショップを通して把握し、彼らの権利について考える。</p> <p>本時は前回導入したAsylum-Seeker Case Studyに引き続き取り組んで、各国の亡命希望者に関する状況や実情を詳しく調べ、全体でシェアをする。</p>		
受講者の反応	各グループで活発な議論が展開され、よく考え、よく議論した。		
事後指導	課題について各グループで調査を進め、次回以降の授業でも取り組みを継続するし、全体でシェアする。		
反省・課題	特記事項なし。		
記録欄	<p>10:55~11:10 前回までのおさらい。本時の導入(World Refugee Dayについて。世界の動向。)</p> <p>11:10~ Asylum-Seeker Case Study① U.S., China, Turkey, Netherland, Germany の5チームに分かれてグループワーク</p> <p>11:45-11:55 10 minutes Break</p> <p>11:55~ Asylum-Seeker Case Study②</p> <p>※Asylum-Seeker Case Studyにおいては、各グループが各々の国の難民、亡命者の受け入れ事情を調査し、まとめるグループワークに取り組んだ。</p>		
報告者	佃 裕介		

- * WWL事業に関して外部から講師を招聘する場合には、必ず前週までに運営委員会にて本書類を審議すること。
- * 「記録欄」には当日の様子を撮影した写真や、新聞などに掲載された場合はその記事等を貼付、もしくはプログラムの詳細を

WWLコンソーシアム構築支援事業 実施プログラムの概要並びに実施報告書 【様式1】

実施要項			
演題・講義内容	What is GSG?		
講演者・指導者氏名(所属)	Henry Prosack (国際部)		
実施日時	令和 4 年 7 月 13 日 10 時 55 分 ~ 12 時 45 分	外部講師来校日時	令和 年 月 日 時 分 来校方法
授業名	KOA学Ⅲ	受講対象	高校3年国際コース 受講人数 45 人
実施場所	翠嵐館 中教室	使用備品	プロジェクター、スクリーン、マイク 謝礼 あり(なし)
責任教員	Henry Prosack	担当教員	Prosack、黒宮、茨木、佃
役割分担	講義者:Prosack、生徒サポート:黒宮、茨木、佃		
目的	今年度のGlobal Simulation Gamingに向けたガイダンス及び基礎知識の獲得		
講演・講義の概要	GSGについてのガイダンス、これまで7ヶ月生が取り組んできたトピックについて全体で共有(What is GSG, What is refugee, Who is asylum-seekers, Who is Migrant?)		
備考・その他	オールイングリッシュの授業である		
実施報告			
内容	(第1部) まず最初に本時から10ヶ月留学生が合流するのにあたり、全体でGSGについてのガイダンスを行った。担当教員からの概要説明が終わると、4月からの内容を全体で共有するために授業を構築していく上でのキーワードであった“refugee”を中心に、話を掘り下げていき、ペアワークやグループワーク、そして全体でのシェアを通して、理解を深めた。 (第2部) 昨年度のGSGのビデオを見ながらGSGの当日の流れや実際のディスカッションを鑑賞した。		
受講者の反応	各グループで活発な議論が展開され、よく考え、よく議論した。		
事後指導	次回から本格的にGSGが始動する。		
反省・課題	特記事項なし。		
記録欄	<p>(第1部)</p> <p>10:55~11:00 担当教員からの挨拶</p> <p>11:00~11:12 全体の概要説明(What is GSG?)</p> <p>11:12~11:25 What is refugee? (ペアでディスカッション、その後全体でシェア)</p> <p>11:25~11:35 これまでの取り扱ったTopicを全体でおさらいしながら共有 (Who is asylum-seekers? / Who is IDP? ※IDP: Internally Displaced People / Who is Migrant?)</p> <p>11:35~11:45 昨年度のGSGのビデオ鑑賞(途中まで)</p> <p>11:45~11:55 10 minutes Break</p> <p>(第2部)</p> <p>11:55~12:35 昨年度のGSGのビデオ鑑賞(第1部の続きから) ⇒ 担当教員が逐一、場面に対するコメントを入れながら解説</p> <p>12:35~12:45 本年度のGSGについての説明</p>		
	報告者	佃 裕介	

- * WWL事業に関して外部から講師を招聘する場合には、必ず前週までに運営委員会にて本書類を審議すること。
- * 「記録欄」には当日の様子を撮影した写真や、新聞などに掲載された場合はその記事等を貼付、もしくはプログラムの詳細を

WWLコンソーシアム構築支援事業 実施プログラムの概要並びに実施報告書 【様式1】

実施要項				
演題・講義内容	希望アクターの選択と「最初の課題」の提示			
講演者・指導者氏名(所属)	茨木 美帆 (国際部)			
実施日時	令和 4 年 8 月 31 日 10 時 55 分 ~ 12 時 45 分	外部講師来校日時	令和 年 月 日 時 分	来校方法
授業名	KOA学Ⅲ	受講対象	高校3年国際コース	受講人数 45 人
実施場所	大会議室	使用備品	PC	謝礼 あり(なし)
責任教員	茨木 美帆	担当教員	茨木	
役割分担	講義者:茨木			
目的	Global Simulation Gaming の取組み内容確認と取組みの開始			
講演・講義の概要	GSGの取組み内容について確認後、個別に担当を希望するアクターを選択、今年度GSGの「最初の課題」に取り組む			
備考・その他				
実施報告				
内容	(第1部) 前回の授業でガイダンスを行ったGSGにおける取組み内容の確認に加え、留意点の導入を行い、個別に担当を希望するアクターの選択を行う。 (第2部) 今年度GSGを行うにあたり、背景知識を獲得することを目的とした「最初の課題」に取り組む。			
受講者の反応	個別の取組みが主体であったが、各自積極的に質問し、熱心に取り組んだ。			
事後指導	「最初の課題」の完成と提出により評価される。			
反省・課題	特記事項なし。			
記録欄	(第1部) 10:55~11:15 GSGの取組み内容について確認、留意点の導入 11:15~11:45 個別に担当希望アクターを選択する(第5希望まで)。 ※ 選択内容についてはGoogle Formsに回答。第1~第3希望までは希望理由を明記し、その理由により 希望アクターの決定を行う。 11:45~11:55 10 minutes Break (第2部) 11:55~12:00 「最初の課題」の導入 12:00~12:45 「最初の課題」について個別に調査を開始する。 ※「最初の課題」 1. What was the definition of a refugee which was maintained at the Convention Relating to the Status of Refugees in 1951? 2. In 1991, Sadako Ogata was inaugurated as United Nations High Commissioner for Refugees. In response to the tense international situation at that time, she constructed a new framework for			
	報告者	茨木 美帆		

- * WWL事業に関して外部から講師を招聘する場合には、必ず前週までに運営委員会にて本書類を審議すること。
* 「記録欄」には当日の様子を撮影した写真や、新聞などに掲載された場合はその記事等を貼付、もしくはプログラムの詳細を